

「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム

ファザーリング全国フォーラム in 愛媛

開催報告書



■実施概要

- ◎日程・会場：令和6年1月26日(金) 愛媛県男女共同参画センター
1月27日(土) えひめこどもの城/愛媛県男女共同参画センター
およびオンライン中継
- ◎参加対象：企業経営者・管理職、子育て中の方、プレパパママ、学生など
- ◎参加費：無料（料理教室のみ材料費が必要）
- ◎主催：①愛媛県
②ファザーリング全国フォーラム in 愛媛 実行委員会
（NPO 法人ファザーリング・ジャパン、公益社団法人松山青年会議所、
NPO 法人ワークライフ・コラボ）
③公益財団法人えひめ女性財団
- ◎後援：内閣府、厚生労働省、財務省、連合日本労働組合総連合会(連合)、
にっぽん子ども・子育て応援団
- ◎協力：えひめこどもの城、こども家庭庁
- ◎協賛：マルコメ株式会社、パパしるべ、愛麺株式会社、松山ヤクルト販売株式会社、
メットライフ生命保険株式会社（順不同）



メットライフ生命保険株式会社
シニアエキスパートコンサルタント 泉田 洸

〒790-0003
愛媛県松山市三番町6-3-4 松山パルビル6F
TEL: 089-932-7461

■プログラム

◎1月26日（金）＜主に企業向け＞

【開会式】 13:00～

【基調講演Ⅰ】 13:15～ 兵庫県豊岡市の取組+パネルディスカッション＜主催：愛媛県＞

【分科会 1】 15:15～ 自治体事例発表：県・市町の「男性育休」と「仕事と家庭の両立支援」
＜主催：愛媛県＞

【分科会 2】 15:15～ フューチャーデザインで考える日本の財政や子育て支援策
～より良い未来のために、今できることを考えよう～＜主催：財務省＞

【分科会 3】 15:15～ 男性の仕事と育児両立セミナー＜主催：厚生労働省＞

◎1月27日（土）＜主に一般の方向け＞

【分科会 4】 10:30～ 地域で子どもとスポーツを楽しむ！

＜主催：ジェンダーギャップ解消ラボまつやま（松山市 SDGs 推進協議会）＞

【分科会 5】 10:30～ パパのリスキリング（パパ生成 AI 入門）

＜主催：全国 FJ 公開型勉強委員会実行委員会＞

【分科会 6】 13:00～ 夫婦が子どもが笑顔になる方法～夫婦のマインドセット～＜主催：愛媛県＞

【分科会 7】 13:00～ 家族がもっと仲良くなる!! お片づけの3つの秘訣＜主催：FJ＞

【分科会 8】 10:30～ ライフデザインワークショップ＜主催：愛媛県＞

【分科会 9】 13:30～ パパママほやほや子育てセミナー＜主催：えひめ女性財団＞

【基調講演Ⅱ】 14:10～ ワンオペ JOKER 作者 宮川サトシ と語る、俺達の子育て奮闘記
＜主催：えひめ女性財団、愛媛県、実行委員会＞

【SC1】 10:30～、11:30～ 親子で楽しむ、すくすく子ども体づくり教室
＜主催：えひめ女性財団＞

【SC2】 12:00～ PAPARK＜主催：FJ 関西＞

【SC3】 10:30～ トモシヨク＜主催：FJ＞

【閉会式】 15:30～

開会式

【日時】 2024年1月26日（金） 13:00～13:10

【場所】 愛媛県男女共同参画センター1階 多目的ホール

【主催団体名】 愛媛県

【登壇者】 安藤 哲也（ファザーリング全国フォーラム in 愛媛実行委員長）

濱里 要（愛媛県副知事）

【実施内容】

安藤実行委員長、愛媛県知事（濱里副知事代読）による主催者挨拶及び加藤こども政策担当大臣によるビデオメッセージの投影を行った。



基調講演 I

【日時】 2024 年 1 月 26 日（金） 13：15～13：45

【場所】 愛媛県男女共同参画センター 1 階 多目的ホール

【主催団体名】 愛媛県

【登壇者】 原田 紀代美（兵庫県豊岡市暮らし創造部ジェンダーギャップ対策室 室長補佐）

【実施内容】

「地域におけるダイバーシティの重要性～多様な働き方、多様な価値観を尊重する風土の拡大～」という題目で基調講演を行った。主な内容としては以下のとおり。

- ・人口減少の主な要因は若者の流出であり、豊岡市の若者回復率を男女別に見たところ、男性は 52.2% で 2 人に 1 人帰ってきているのに対し、女性は 26.7% で 4 人に 1 人しか帰ってきていないことが判明。
- ・ジェンダーギャップの問題点は、人口減少の加速、経済的・社会的に大きな損失があることに加え、一番の問題は同じ社会の構成員としてフェアじゃないということである。
- ・豊岡市では、職場のジェンダーギャップの解消を進めようと、2019 年に豊岡市ワークイノベーション戦略を策定。2021 年には家庭、地域などまち全体を対象とした豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略を策定するとともに、ジェンダーギャップ対策室を設置し、戦略的・体系的に取り組んでいる（ワークイノベーション推進会議の設立、経営者・マネジメント層向けセミナーの実施、ワークイノベーション表彰制度（あんしんカンパニー）等）。
- ・ジェンダーギャップの解消は、産業構造や人口構成の急激な変化に対応しながら、すべての人にとって生きやすい社会、持続可能な地域社会をつくるための取り組みであると考えている。



基調講演Ⅰ（パネルディスカッション）

【日時】 2024年1月26日（金）13:50～14:50

【場所】 愛媛県男女共同参画センター1階 多目的ホール

【主催団体名】 愛媛県

【登壇者】 藤社 司（株式会社フジコソ 代表取締役会長）

富岡 怜奈（株式会社フジコソ 管理部部長）

佐川 東輝枝（佐川印刷株式会社 取締役）

原田 紀代美（基調講演講師）

岩崎 林太郎（こども家庭庁長官官房総務課 企画官）

濱里 要（愛媛県副知事）

【ファシリテーター】 桐木 陽子（松山東雲短期大学教授）

【実施内容】

男性育休・女性活躍等に取り組む地元企業、豊岡市、県、国によるパネルディスカッションを行った。主な内容としては以下のとおり。

- ・ 県内企業2社から、男性育休や女性活躍等に関する取組みを紹介するとともに、取組みを始めたきっかけや取組みによる効果について説明。

<株式会社フジコソ>

- ・ 女性管理職の登用、社内報で育休情報の配信、パパママ座談会、育休取得フローの確立等を実施。
- ・ 取組みを始めたきっかけは「人手不足」。人材が集まらない時期が続き、事業縮小や廃業についても考えたが、やはりなんとしても事業を継続させたいと考え、取組を始めた。
- ・ 取組みを通じて、応募者数の増加、質の高い人材の応募、男女ともに育休取得率100%等の効果があった。

<佐川印刷株式会社>

- ・ 在宅勤務用タブレット端末の貸与、両立支援アドバイザーの設置、社内ロールモデルの情報共有、女性キャリアアップ支援等を実施。
- ・ 取組みを始めたきっかけは「人材活用の難しさ」と「業界の環境変化」。女性の採用比率は高いが、ライフステージの変化による離職が多かった。また、デジタル化等の急速な発展に伴い変化変革を続けることが事業発展へのカギであった。
- ・ 取組みを通じて、女性社員の勤続年数の伸長、女性リーダーの活躍、生産性の向上やイノベーションの実現等の効果があった。

- ・ 濱里副知事から、人口減少の現状や県の取組み（ひめボス宣言事業所認証制度、男性の家事参画・育休支援事業）について説明。
- ・ 岩崎企画官から、国のこどもまんなかの取組みについて説明。



分科会1 自治体事例発表

【日時】2024年1月26日(金) 15:15~16:45

【場所】愛媛県男女共同参画センター2階 第1・2会議室

【主催団体名】愛媛県

【ファシリテーター】安藤哲也(ファザーリング・ジャパン代表理事)

【実施内容】

テーマ:「男性育休」と「仕事と家庭の両立支援」

参加者:県内自治体の人事担当者

主な内容

○県内自治体の男性職員の育児休業等の取得状況について

説明者:愛媛県市町振興課職員

令和4年度の一般職の国家公務員の男性の育児休業取得率は72.5%となっているが、地方公務員の男性の育児休業取得率については、一般行政部門では49.9%、全体としては31.8%にとどまっている。

全国の市区町村全体では一般行政部門では44.1%、全体としては36.4%という状況。

一方、愛媛県内の市町においては、一般行政部門においては29.6%、全体としては24.3%となっており、また消防部門については12.5%、教育委員会は14.3%であり、さらに低い状況となっている。

全国の市区町村別の男性育児休業取得率の都道府県順位では、令和4年度は愛媛県は41位となっており、低位にとどまっている状況。また、県内市町の男性育児休業取得率の県内平均は毎年増加はしているものの全国平均と比べると同じかそれを下回っている状況になっている。

地方公務員の男性の育児休業については取得促進に向けた取組みを一層加速しなければならないといえるが、取得促進にあたっては一般行政部門のみならず、取得の少ない消防部門や教育委員会なども含めた組織全体でより一層積極的に取り組む必要がある。

○県・市町による取組み発表

男性育休の取得促進に向けた効果的な面談の実施や、育児等に関するガイドブックの作成など、仕事と家庭の両立支援(特に男性育休)に関する取組み状況についての説明があった。また、課題と感じている部分については、男性育休取得者の代替職員をどうすればよいか、いまだに男性職員が育児休業を取得することについて管理職の理解がないという意見があった。

○県・市町による意見交換

(意見交換により出た意見)

- ・代替職員の配置が難しい。ある程度の人数があるところではできるが、少ないところではあまりできない。
- ・育児休業取得が目標となっていないか。取得後の育児・家事参画が大事なのであり、目的を見失わないことが必要だと思う。
- ・管理職の意識付けに課題を感じている。

(安藤氏より)

・代替職員を充てられる余裕がないという意見があったが、仕事の棚卸をするチャンスと考えるとよいのではないかと。

- ・ 父親が育休を取得し、育児に関わることによってコミュニケーション力、マルチタスク力、マネジメント力を身に付けることができ、それが復帰後に職場の力になる。ただし、これには数日ではなく長期の休業で身につくもの。
- ・ 育休を取得することによって、地域や家庭のことなど仕事以外の面を見つめ直すことにもつながる。
- ・ 今後は育児との両立だけではなく、介護との両立も考える必要が出てくる。



分科会2 フューチャーデザインで考える日本の財政や子育て支援策 ～より良い未来のために、 今できることを考えよう～

【日時】2024年1月26日（金）15:15～16:45

【場所】愛媛男女共同参画センター研修室 及びオンライン

【主催団体名】財務省（協力：こども家庭庁）

【登壇者】塚越 学（ファザーリング・ジャパン理事/公認会計士）

高祖 常子（ファザーリング・ジャパン理事/マザーリングプロジェクトリーダー）

星野大輝（財務省大臣官房文書課広報室課長補佐）

大本エリナ（財務省主計局調査課課長補佐）

岩崎林太郎（こども家庭庁長官官房総務課企画官）

【実施内容】

塚越氏司会の下、財務省及びこども家庭庁の職員からの説明及び分科会参加者によるワークショップ等を実施。財務省からは、日本の財政状況や令和6年度予算の概要について、こども家庭庁からは、昨年12月に閣議決定された「こども未来戦略」を受けた足元の取組状況について紹介があったのち、分科会参加者と国・自治体の職員が一緒になり「フューチャーデザイン」という考え方をもとにしたグループワークが実施された。

① FJ と財務省のこれまでの取組みについて紹介（高祖氏）

FJのマザーリングプロジェクトリーダーとして、財務省と同プロジェクトとの連携した取組状況を紹介。

② 「日本の財政の現状と課題」（星野氏）

日本の財政状況とその課題について、資料を用いて紹介。日本の財政状況は、歳出が税収を上回り伸び続けているが、その大きな要因として少子高齢化に伴う社会保障費の増があること、現在はこうした課題に対応するため、「全世代型」の社会保障制度への転換が図られていること等を説明。また、令和6年度予算等で、子育て政策の強化として、児童手当の拡充等様々な予算措置を行う予定であること等を紹介。

③ 「こども政策の課題と展望」（岩崎氏）

令和5年12月に閣議決定された「こども未来戦略」の全体像について、資料を用いて説明。なかでも今後3年間で集中的に取り組む施策として「加速化プラン」を紹介。あわせて、こども・子育てにやさしい社会をつくるための意識改革として、「こどもまんなんかアクション」の取組を紹介し、地域や社会全体でこどもを育てやすい環境にしていくことが大事だと呼びかけが行われた。

④ ワークショップ（大本氏）

財務省及びこども家庭庁職員による説明を受け、「フューチャー・デザイン※」の考え方をもとに、「2050年、こどもを生み育てやすいと思える社会にするには、今わたしたちはどんな選択・政策をとるべきか」をテーマに国・自治体の職員と分科会参加者を交えてグループワークを実施。あるグループでは、2050年の社会では、働き方の改善により家族で暮らす時間が増えたことで、母親の負担が減少し、結果として子供を育てる環境が改善しているものと考え、現世代に対して、在宅ワークや時短勤務の更なる普及、こど

もの学校行事に合わせた休暇が取得できるような制度設計等、社会の意識を変える取組みを求める意見が出されるなど、活発なワークショップが実施された。

※フューチャー・デザインとは、現世代が将来世代のためなら喜んで我慢をしたいという気持ち（将来可能性）を最も発揮できるような社会の仕組みをデザインすること、あるいはそのための学術研究と実践のこと。



分科会3 男性の仕事と育児両立セミナー

【日時】2024年1月26日（金）15:15～16:45

【場所】愛媛男女共同参画センター多目的ホール 及びオンライン

【主催団体名】厚生労働省

【登壇者】坂本直紀（坂本直紀 社会保険労務士法人代表）

【実施内容】

男性の育児参画の推進は、「育児をしたい」という男性の希望の実現に加え、企業にとっても、働き方の見直しにつながるなどのメリットがある。また、男性が育休を取得し、パートナーと育児や家事の負担を分かち合うことは、女性の就業継続やキャリアアップに不可欠である。

本セミナーでは、企業における男性従業員の仕事と育児の両立を目指し、育休や育児目的休暇の取得を進めるため、以下のような内容を分かりやすく解説し、男性の育休取得に向けた意識向上を図った。

○男性の育児休業取得の現状と企業における課題

共働き世帯の増加、夫の家事・育児時間、男性の育児・家事に関する世代別の意識や男性の育児休業取得に際しての企業の課題などを踏まえ、男性の育休取得の現状について解説。

○育児休業取得・仕事と育児の両立のメリット

男性が育児休業を取得するメリットとして、取得者には、我が子の成長を感じられること、家事・育児のスキルが向上すること、子育てを通じたコミュニケーションの輪が広がることなどについて解説、また、妻のメリットとしては、産後の不安定な時期の精神的・身体的なサポートになること、良好な夫婦関係の構築につながることを解説、さらに職場では、チームから一人抜けることで、メンバーのスキルアップが望めることを説明。加えて、女性の活躍推進の観点から、企業、社会にも良い影響があることにも言及。

○育児休業制度の概要

育児休業の取得は、男女ともに取得が認められていること、妻が専業主婦でも取得できること、両親が協力して育児休業を取得する場合には特例があること、育児休業期間中の収入（給付金）に関する事など、制度に関する基礎的な知識について解説。また、育児休業を取得しやすくするための企業の義務（妊娠・出産を申し出た労働者への個別の周知・意向確認、育児休業を取得しやすい雇用環境整備）について解説。

○仕事と育児の両立のために

育休取得にあたり、取得者が育休取得前に実施すべきこととして、業務の棚卸を行うことや取得後に育休取得のメリットを会社・上司・同僚に共有するなどの育休取得者のポイント、イクボスを目指すなど経営層・管理職として意識すべきポイント等を解説。

○育休取得者の体験談、企業の取組事例

育児休業の取得者の体験談、イクメン企業アワード受賞企業の取組事例の紹介を行い、育休取得による喜びや取得者の悩み・葛藤、企業にとってのメリットや苦勞について説明。

○企業における両親学級

企業にて両親学級を開催する目的やその内容を解説し、企業や従業員にとってメリットがあることを理解してもらおう。また、実際に両親学級を実施している企業の事例を紹介。

○個人ワーク

育休を取得しやすい職場環境とするためにどうすればよいか、自分事として捉えるため、個人で考える時間を設けた。

分科会4 地域で子どもとスポーツを楽しむ！

【日時】 2024年1月27日（土）10:30～12:00

【場所】 えひめこどもの城 あいあい児童館 研修室

【主催団体名】 ジェンダーギャップ解消ラボまつやま（まつやまSDGs推進協議会）

【登壇者】 加納飛鳥（佐川印刷株式会社）

和泉智子（愛媛トヨタ自動車株式会社）

田室和紀（愛媛マンダリンパイレーツ統括マネジャー）

山本千絵（まつやまNPOサポートセンター）と

秀野太俊（愛媛新聞社 記者）

司会：堀田真奈（NPO法人ワークライフ・コラボ） 桐木陽子（松山東雲短期大学教授）

【実施内容】

ねらい：ジェンダーギャップ解消の目指す先は、性別問わず自分の意志での「自己決定」、「地域スポーツ」という視点で、ジェンダーの視点を含めた地域の現状や課題を浮き彫りにし、解決策を考える時間にする。

第1部：現状と課題

テーマ①：小学校でのスポーツ少年団の保護者のかかわり 加納飛鳥（佐川印刷株式会社勤務）

テーマ②：家庭内や地域でのコミュニケーション 和泉智子（愛媛トヨタ自動車株式会社勤務）

質問者：山本千絵（まつやまNPOサポートセンター）

テーマ③：子どもたちの体力低下、地域貢献活動について 田室和紀（愛媛マンダリンパイレーツ）

質問者：秀野太俊（愛媛新聞社記者）

休憩（5分：体動かし） 桐木陽子（松山東雲短期大学教授）

第2部：解決策を探る！（パネルディスカッション）

「地域で誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境づくりのために」

パネリスト：加納飛鳥・和泉智子・山本千絵・田室和紀 コーディネーター：秀野太俊

まとめ 桐木陽子（松山東雲短期大学教授）

・第一部では、登壇者からの、スポーツ少年団での保護者かかわりからのメリットと課題や、家庭内での、地域活動での夫婦の価値観の相違への対話の必要性、また、愛媛マンダリンパイレーツの田室さんから、そもそも子どもの体力低下や身体を動かす機会のなさについて、現状の課題として挙がり、単なる目の前の子どものスポーツの話に終わらず質問者が言葉を引き出していった。休憩では、参加者参加型で体と頭を動かして心をほぐす時間を持ち、第2部に入る。

解決策につながるキーワードがそれぞれから出てきた。

「スポ少の保護者活動は、子どもと青春、親欲の向上、地域の子どもの知り各変わりが深くなった」というメリットも共有され、また「子どもへの声かけが重要で、監督が絶対、という暗黙ルールにどうコミュニケーションをとるか、違和感をテーブルに乗せてみる勇気が必要」「部活の地域移行の中で、立場の違う人たちとの運営や、『勝ち』へのすり合わせや対話が必要」「父がコーチ、母がお茶出しという役割分担への違和」「指導者（大人）の時代遅れな声かけにどう向き合うか」という課題に、ギャップを埋めるためのコミュニケーション力が必要で、地域コミュニティがないこともすべてに通じる課題、そのような場所を意図して作る必要性も訴えた。今回のテーマはこどもの問題ではなく地域課題であり、地域連携のガイドラインの必要性や、「子どもの運動能力のアップは、老後の自立や医療費軽減にもつながる」という社会へのつながりも浮き上がった。

ジェンダーの問題をもっと軽やかに捉えて広めるには、スポーツをテーマに、ジェンダー平等や地域のあり方を考えると分かりやすいと感じた。

<アンケートの声>

- ・保護者の性別によって役割分担を変えることは改めたほうが良いとおもいました。
- ・スポーツを通じてまちづくりを考えることが大切だと思いました。
- ・頼ってもよいというメッセージを伝えることが大切、ハラスメントにも通じる話だと思いました。
- ・高齢者が関わる現場からのギャップへの気づき 子ども達の才能を伸ばしてあげられる環境が増えて欲しいなと思います。
- ・今子どものスポーツ活動に親として取り組まれている方と、プロスポーツから地域の運動に取り組まれている方の話がバランスよく聞けてためになりました。
- ・スポーツをテーマにジェンダー平等や地域のあり方を考えることが大切
- ・働き方や社会全体に通じる考えについて、学ぶことが出来ました。地域のそれぞれの現場の声が聞けてよかったです。
- ・子どもがやりたい事を保護者がサポートするには家庭の問題や保護者の負担が大きくこういった問題がなくなって環境整備が出来ればもっといろんなスポーツで子ども達が活躍できる場所が増えていくのをのぞみます。自分の子育てをしていた頃の記憶が蘇ってきて子ども達の姿を思い出しながら思いました。楽しく学べた時間をありがとうございました。



分科会5 パパのリスキリング (パパの生成 AI 入門)

【日時】 2024年1月27日(土) 10:30~12:00

【場所】 ボランティアルーム

【主催団体名】 全国 FJ 公開型勉強会実行委員会

【登壇者】 高橋 朋裕 (FJ 会員)

田崎吉則 (FJ 会員 FJ 多摩)

浅山貴宏 (FJ 理事 FJ 関西)

【実施内容】

パパのリスキリング (パパの生成 AI 入門)

・ NPO 法人ファザーリング・ジャパンと全国の地方 FJ 団体により、全国のゆるやかにパパやママ同士のつなげること (ペチャクチャ井戸端会議)、学びを深めること (リスキリング講座) を目的にした実行委員会形式のプロジェクト。

・ リスキリング講座のプレゼン大会で投票が多かったセミナーを代表し、「パパの生成 AI 入門-家事・育児も生産性 UP と AI 時代を生きる子どもたちへ伝える事」を取り上げた。

・ 司会の田崎氏より分科会の挨拶と、全国 FJ 公開型勉強会実行委員会の概略について説明をした

・ メイン講師の高橋氏より、生成 AI 時代にパパが目指す姿として、

①生成 AI を使って、家事・育児を効率化して、家族と向き合う時間を増やす！

②生成 AI を子どもの学びへ生かす子どもが生成 AI 時代を乗り越え手助けをして、子どもと一緒に生成 AI を楽しむ！

といった視点で話をされた

・ 会場からは、

「生成 AI がこういったつかいかたができるのか」

「生成 AI を使うことにより、子どもと新しい関係性が気づける」

といった感想や、

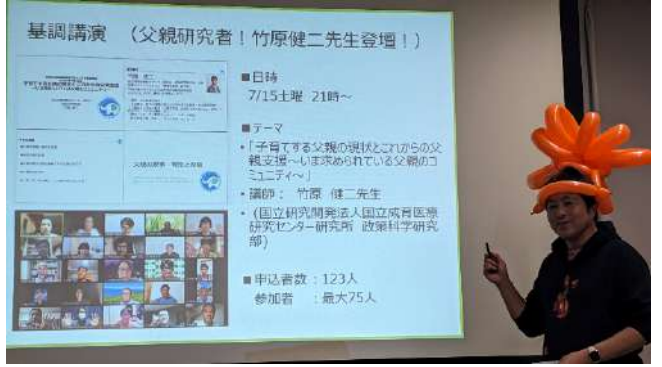
「生成 AI を使う上でプロントの使い方は？」

「どれだけ生成 AI は正しいのか？」

といった、生成 AI そのものについての質疑もあった。

・ 生成 AI という新規性の高い技術と、パパと子どもとの関係性について、全く新しい切り口を提示する、まさに「パパのリスキリング」の機会となった。





分科会6 夫婦が子どもが笑顔になる方法～夫婦のマインドセットの仕方～

【日時】 2024年1月27日（土）13:00～14:00

【場所】 えひめこどもの城 あいあい児童館 研修室

【主催団体名】 愛媛県

【登壇者】 伊藤 悟志（NPO 団体 Papa'n 代表）

伊藤 珠里

【実施概要】

県内ではまだ男性の取得が少なかった 10 年前に社内で初めて育休を取得。育児に積極的でなかった夫が変わったコミュニケーションの仕方、考え方を夫、妻それぞれの立場からお話いただきました。

【実施内容】

1.マインドセットとは

- ・ものの見方。物事を判断したり行動したりする際に基準とする考え方。

2.自己紹介～育休経験

- ・2010年結婚 「イクメン」が流行語大賞
- ・2012年第1子誕生 2か月間の育休取得
- ・2015年第2子誕生 1年間の育休取得

3.家族が笑顔になるマインドセット法

①コミュニケーションの仕方を知る

- ・感謝の言葉「ありがとう」を出し惜しみしないこと

②自分に偏り（バイアス）があると自覚する

- ・アンコンシャス・バイアス

③子育てや様々な情報を知る、体感する

- ・子育てを学ぶ（食育 足育 救護法 コミュニケーション術など）

④対話をし続ける

- ・対話と会話の違い

⑤親友になる（態度を中庸にし続ける）

- ・愛とフィリア（友愛）のコラボで子育てを楽しむ

4.結論

- ・マインドセットは自分で選ぶ意識を持つ！
- ・夫婦でマインドセットを行うことで家族が笑顔になってくる！



分科会 7 家族がもっと仲良くなる!! お片づけの3つの秘訣

【日時】 2024年1月27日(土) 13:00~14:00

【場所】 ボランティアルーム

【主催団体名】 NPO 法人ファザーリング・ジャパン

【登壇者】 片元 友紀 (ライフオーガナイザー)

【実施内容】

『家族がもっと仲良くなる!! お片づけの3つの秘訣』と題して家族の中でのお片づけに悩むパパ・ママを対象にセミナーを開催。

“お片づけ”と聞くと、

- ・ 嫌な気持ちになる
- ・ 自分が責められているような気がする
- ・ 自分ばかり頑張っているような気持ちになる
- ・ 妻に任せてしまっている

などの意見が出る中、「こうするべき」と決めつけてしまうよりも家族で話し合い、いかに共通のゴールにむけてチームとなりお片づけが出来るかということを

- ① ゴール設定の仕方
- ② 声かけの仕方
- ③ 悩んだ時のコツ

に分けてお伝えした。



分科会8 ライフデザインワークショップ

【日時】2024年1月27日(土) 10:30~12:00

【場所】愛媛県男女共同参画センター2階 第1会議室

【主催団体名】愛媛県

【登壇者】中塚 崇司(サポートオフィス Facil 代表)

【実施内容】

プログラム

ワークショップ①

講義1: “ライフキャリア”と今、それを考えてみる意味

講義2: 人生/長寿社会と多様な人生

講義3: 働くと学ぶ/就職と就学を取り巻く環境

講義4: 家庭/結婚と子育て・家事を取り巻く環境

講義5: 男女共同参画社会にむけて

講義6: 人間関係と健康

ワークショップ②

実施概要

今年度から県が高校生や大学生等を対象に行っているライフデザインワークショップを開催。

今回はファザーリングジャパン全国フォーラムの分科会ということもあり、ヤングボランティアで活動する高校生のほか、一般参加の社会人も混ざり、グループワークと講義を受講した。

グループワーク①では、これまでの自分のライフイベントを振り返り、そこから自分の中で譲れないことや大切にしたいことは何かを考えた。

次に講義では、男女共同参画の現状や妊孕性に関する知識も交え、これからライフイベントを迎えるにあたって必要となる情報を学んだ。

そして、グループワーク②では、グループワーク①や講義で得られた情報を基に、実際にライフデザインを描き、そのライフデザインの実現のためにこれから始めたいことについて意見を共有した。

生徒からは、過去の自身の経験から警察官になりたいという意見や料理人になるため、調理の技術だけでなく、経営についても学びたいという意見がでた。また、自分の中でやりたいことがまだ明確になっていないという生徒も、明確になっていないからこそ目の前のことを一生懸命取り組みたいという意見があり、少し先の未来を見通す機会になった。



分科会9 パパママほやほや子育てセミナー

【日時】 2023年1月27日(土) 13:30~15:00

【場所】 愛媛県男女共同参画センター 和室

【主催団体名】 (公財) えひめ女性財団・(一社) 愛媛助産師会

【実施内容】

参加者：パパママ赤ちゃん3組

- ①育児のお話
- ②ベビーマッサージ
- ③絵本の読み聞かせ
- ④足形とり

子育て中の夫婦が赤ちゃんと一緒に参加し、助産師さんによる育児のお話、親子や夫婦でのマッサージでのスキンシップ、参加者同士のわが子トークなどを通してコミュニケーションを図った。最初は初めての場所で泣いていた赤ちゃんも、徐々に慣れ笑顔を見せてくれた。普段多忙なパパとママが赤ちゃんと一緒にほっと力を抜ける穏やかな時間となった。



基調講演Ⅱ ワンオペ JOKER 作者宮川サトシと語る、俺達の子育て奮闘記

【日時】 2024年1月27日(土) 14:10~15:30

【場所】 えひめこどもの城 あいあい児童館 多目的ホール

【主催団体名】 公益財団法人えひめ女性財団

【登壇者】 講師：宮川 サトシ (漫画家)

パネリスト：森岡 岳夢 (愛媛新聞社記者)

パネリスト：村上 信介 (愛媛県労政雇用課職員)

ファシリテーター：川島 高之 (NPO 法人ファザーリング・ジャパン理事)



【実施内容】

育児コメディ漫画「ワンオペ JOKER」作者の宮川サトシさんをお招きし、男性の家事・育児をテーマにしたトークショーを実施。ファザーリング・ジャパンの川島さんの進行のもと、漫画のエピソードを深掘りしつつ、宮川さんの考える家事・育児についてお話しいただいた。

宮川さんは漫画の中で描かれた数々のエピソードについて、「『自分は家事・育児をこんなにやっていますよ』とアピールするものではなく、自分の父親としての成長譚として描いてきた。」とし、子供だけでなく親も様々な経験や失敗を重ねて少しずつ成長していくものだと思うと語った。また、自身の子育てをテニスのダブルスに例えながら、「ボールに近い選手が打ち返すように、役割分担をせずに子供に近い方が動くようにしている。その分、夫婦間でコミュニケーションをしっかりとって、毎日の子供の様子を情報共有しながら育児がどちらか一方の負担にならないようにしている。」と語った。

講演会後半には育児休業取得経験のある愛媛新聞社記者の森岡岳夢氏と愛媛県労政雇用課職員の村上信介氏もパネリストとして登壇し、それぞれが向き合ってきた育児について語り合った。森岡さんは「自分は立派なイクメンだと思っていたけど、3人目の子供が生まれて初めて育児休業を取得したとき、家事・育児は想像以上に大変なことだということを思い知った。」

村上さんは「最初は子供のオムツを換えるだけでも怖怖やっていたが、すぐに慣れてテキパキこなせるようになった。」など、育休取得者ならではの失敗談や成長エピソードを披露した。進行役の川島さんが3人の登壇者のエピソードを受けて「こんなに立派に見える3人のパパでも、最初はダメダメな部分があったんですね。」とまとめると、会場は笑いに包まれた。

最後に子育てをしていて楽しかった・嬉しかったことについて質問されると、「今まで行かなかった場所や知らなかった物に出会えて毎日が新鮮。」「楽しいこと、幸せを感じることを家族で共有できる。」といったエピソードが語られた。3人のパパがそれぞれの家事・育児のエピソードを自然体でワイワイと語り合う中、参加者も笑いながら耳を傾けるなど終始和やかな雰囲気での講演会となった。



Special Contents1 親子で楽しむ、すくすく子どもカラダづくり教室

【日時】 2024年1月27日(土) 第1部 10:30~11:00 第2部 11:30~12:00

【場所】 えひめこどもの城 あいあい児童館 多目的ホール

【主催団体名】 公益財団法人えひめ女性財団

【登壇者】 國廣 里 (パーソナルトレーナー)



【実施内容】

【参加者】

第1部：3組8人(大人3人、子供5人)、第2部8組30人(大人14人、子供16人)

【対象】

親子(子供は未就学児までを想定)

子供のうちから身に付けておきたい体の動きや運動習慣を、親子で楽しく遊びながら学ぶ体験催しとして実施。はじめに講師は「乳幼児のうちハイハイやずり這い(腹這い)をしっかりさせることが大事。これができていないと成長した時に体幹が不安定になり、転んでも手をつけなかったり、まっすぐ走れなかったりと、基本的な運動機能へ影響することもある。」と、子供のうちからの体づくりの大切さを一緒に参加しているパパママ向けに説明。その後は実践編として親子でハイハイ競争や、ずり這いのおいかげっこをするなどしてワイワイと盛り上がりながら体を動かした。



Special Contents2 PAPARK (パパーク) パパと子どもにおすすめの工作や絵本の読み聞かせ

【日時】 2024年1月27日(土) 12:00~13:30

【場所】 えひめこどもの城 あいあい児童館 多目的ホール

【主催団体名】 NPO 法人ファザーリング・ジャパン関西

【登壇者】 櫻井 一宇 (NPO 法人ファザーリング・ジャパン関西)

堀 恭平 (NPO 法人ファザーリング・ジャパン関西)

篠田 厚志 (NPO 法人ファザーリング・ジャパン関西) 他



【実施内容】

【参加者】 11組 34人 (大人14人、子ども20人)

【対象】 親子 (特にパパと子ども)

「パパと子どもにおすすめの工作や絵本の読み聞かせ」として、絵本ライブや身の回りの物(傘袋やタオル、新聞紙等)を使った遊び、工作を行なった。

「絵本の読み聞かせ」では、特にパパ向け絵本の紹介を行い、絵本ライブを実施。「パパが主役の絵本」や「ワイルド」、「ビッグ」や「冒険」、「怖い」といったキーワードを交えた絵本。「うんこ」や「おしっこ」、「下ネタ」や「ナンセンス」な絵本など。ママでは読みづらい、パパに読んでもらいたい絵本を紹介し、子どもたちと一緒に絵本を楽しんだ。

身の回りの物を使った遊びでは、傘袋を使用した。空気を入れて膨らまして飛ばしたり、縛って棒状にしたものでチャンバラ遊びを行なった。

また、新聞紙を使った遊びでは、新聞紙を破る、ちぎるといった遊びから始めて、集団でそのちぎった新聞を上空に飛ばしあって遊び、とても盛り上がった。その後は、破った多くの新聞紙を集めて新聞紙プール状態にして子ども達と新聞紙の中にもぐり隠れて遊んだ。「ワイルド」や「でっかい」、「豪快」といったキーワードと「パパ」、「父親」は相性がよく、実際に関わり楽しんでもらいながら、パパへのおすすめの遊びとしてお伝えした。



Special Contents3 親子でおいしい大豆粉パンケーキを作ろう！ トモシヨクキッチン（料理教室） 協力：マルコメ（大豆粉パンケーキミックスプレゼント）

【日時】 2024 年 1 月 27 日（土） ①10:30～11:00 ②11:30～12:00 ③12:30～13:00 ④13:30～14:00

【場所】 えひめこどもの城 クッキングルーム

【主催団体名】 NPO 法人ファザーリング・ジャパン トモシヨク Project

【登壇者】 滝村 雅晴（パパ料理研究家／株式会社ビストロパパ代表取締役／トモシヨク Project リーダー）

【実施内容】

「親子で、いろんな形のパンケーキを作って、みんなでトモシヨク（共食）しましょう」
丸、星、ハート。好きなトッピングをして世界で1つだけのパンケーキをパパ料理研究家の滝村雅晴先生といっしょに作った

メニュー：大豆粉で作る世界で1つだけのパンケーキ

*参加者に、マルコメ「ダイズラボ 大豆粉でおいしいパンケーキミックス」をプレゼント。

【感想】

マルコメ株式会社さんから商品協賛をいただき実施することがた。大豆粉パンケーキミックスを使った30分のできる料理教室。参加希望者はすべて当日に予約を受け付けた。

包丁を使わず、参加者が作りたい大きさ、トッピングを自由にして食べることができ、気軽に参加できるプログラムを考案。未就学児の参加者も楽しくでき、家族で自由にトッピングを楽しんでいた。

調理と食事する場所が分かれていたため、調理時間 30 分後に、隣の部屋でゆっくり家族でトモシヨクできる時間を過ごしてもらった。

大豆粉で作るパンケーキは風味もよく、誰もが失敗せず、上手に美味しく仕上げることができた。開催時間が複数回あったが、参加者の希望時間が集中したことでお断りする家族もいた。



